

第20回

映画で結ぼう ふるさとの心

新高梁市発足記念

スクリーンフェスティバル

とき 8月20日、21日 ところ 高梁総合文化会館

観月ありさがやってくる! インたかはし



20日(土)		21日(日)	
A	シャル・ウィ・ダンス? 洋画・字幕スーパー(9:30~) 出演・リチャード・ギア ジェニファー・ロベス ほか Ray 洋画・字幕スーパー(11:26~) レイ・チャールズ—音楽、恋、そして人生。 彼は、生きることに於いて(天才)だった。	C	ONE PIECE アニメ(9:30~) オマツリ男爵とヒミツの島 名探偵 コナン アニメ(11:21~) 水平線上の陰謀(ストラテジー)
	記念事業 映画「鷲がクルリと」 公開記念トークイベント 観月ありさと語ろう(14:25~)		D 四日間の奇蹟 邦画(13:24~) 出演・吉岡秀隆 石田ゆり子 尾高杏奈 ほか 北の零年 邦画(15:33~) 出演・吉永小百合 豊川悦司 柳葉敏郎 ほか
B	ローレライ 邦画(14:55~) 出演・役所広司 妻夫木聡 柳葉敏郎 ほか いま、会いにゆきます 邦画(17:15~) 出演・竹内結子 中村獅童 武井 証 ほか	無料映画 子ども向けアニメ 10:00~12:00(レクチャールーム) 「忍たま乱太郎」「ぞくぞく村のオバケたち」「ジャングル大帝」「10匹のかえる2」 <特別上映> 19:25~(大ホール) 10月1日全国上映予定の映画を先行上映 「鷲がクルリと」 出演・観月ありさ 哀川 翔 宇津井 健 ほか	

※ A~D前売共通入場券(A~Dのうちいずれかの1ブロックに入場できます)
 高校生以上……1000円(当日券は200円増) 4歳以上中学生まで……500円(当日券は100円増)
 高梁総合文化会館、市内各公民館、市役所住民福祉課、各地域局ほか取扱表示のある場所で発売中

■問い合わせ スクリーンフェスティバルインたかはし実行委員会 (TEL)0282)



国勢調査

平成17年10月1日(土)

10月1日、全国一斉に国勢調査が実施されます

- ◆国勢調査は、10月1日現在で高梁市に住んでいるすべての人が対象となります。
- ◆9月下旬から10月上旬にかけて、総務大臣から任命された国勢調査員が皆さんの自宅へ、調査票の配布と受け取りに伺います。
- ◆国勢調査員をはじめとする調査関係者には守秘義務があり、調査内容の秘密は保護されます。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

■問い合わせ 企画課企画係 (TEL)0314、0209)

ふるさとづくり基金の助成事業を募集

高梁地域局住民福祉課では、次のとおり追加募集を受け付けています。

◆対象 今年9月以降に開始し、来年3月末までに完了する高梁地域(旧高梁市)の団体等が行う次の事業に関するもの

◎地域振興に関する事業

地域、団体および個人が行う地域づくり、地場産業の振興等で、地域振興・活性化につながる特色あるハード及びソフト事業

◎人材育成に関する事業

地域振興・国際交流施策推進のためのリーダー等の育成事業。地域振興・国際交流のための担い手となるボランティアの育成事業

◎国際交流に関する事業

地域、団体および個人が行う人的・文化・経済・技術・学術交流等の各種国際交流事業。国際交流促進のための組織づくり活動事業。国際交流促進のため必要な施設等の整備事業。地域の国際化と地域振興、活性化をさせる国際交流事業

◆締め切り 9月9日(金)

■問い合わせ 高梁地域局住民福祉課 (TEL)0282)

方谷先生を訪ねて

5

最終回

大役をはたす

改革の成功を聞き、多くの人々が方谷から学ぼうとこの地を訪れています。中でも河井継之助は安政六(一八五九)年から七年にかけての八か月間も滞在し、方谷を師と仰いで密着してその心と方法を学び、のちに長岡藩で家老になり、改革を成し遂げています。藩



「長瀬塾図」方谷の塾舎(現・方谷駅西側)

藩財政が安定すると、藩主板倉勝静は江戸幕府から寺社奉行を命ぜられ、最後は筆頭老中(幕政の最高幹部)となり、方谷も顧問として相談に与っています。しかし幕府政治の破綻を予知し、老中辞職を進言した方谷の願いは受け入れられず、慶応三(一八六七)年八月、方谷は帰藩して藩主に代り藩政を指導することにになります。のちに「藩のことはすべて聞いてもらえたが、幕政のことは一つも聞いてもらえなかった」と嘆いています。

その年の十月に大政奉還、十二月に王政復古の大号令が出され、政治の実権は朝廷方に移りました。翌年一月鳥羽・伏見の戦が起きました。勝静は將軍慶喜について江戸に行き、朝敵として松山藩は備前藩の追討の軍を受けることになりました。



方谷先生の遺徳をしのんでつくられた「方谷園」

方谷は藩民を救うため朝廷への恭順を主張、藩地をさし出し降伏することに決めました。しかし勝静の行為を「大逆無道」と決め付けた鎮撫使側の文案に対し、方谷は「主君は誠実な人で反逆者や無道な人ではない、これを認めたのでは臣下たる自分の義が立たない」と自決を決意、遺書を書いたためました。使者の大石・三島・横屋による死を覚悟した嘆願の末「軽拳暴動」に書き換えがなり、無血開城にこぎつけました。ここにも方谷の義を重んじる心を知ることが出来ます。この時、君公警備で大坂にいた熊田恰は勝静から松山への帰藩を命じられました。しかし部下約百五十名と玉島

まで帰ると備前藩に囲まれ、藩のため、玉島を救うために自決しています。松山藩は朝敵として備前藩の支配下におかれまして。方谷は行方不明となつた勝静の探索と藩の復活をめざして努力します。そして松山藩は藩知事板倉勝弼のもとで復活が許され、勝静も函館より無事救出され、安中藩で謹慎に入り、やっと安心して政治から退くことが出来たのです。

◇再び教える

方谷はおだやかで、よく学び、その知識をもとに深く考えて、良いと思つたことは誠意をもってねばり強く実行する、強い意志をもつた人でした。晩年の方谷は後進の教育に尽力しています。

明治二(一八六九)年より長瀬で、三年からは小阪部で家塾を開き、全国から集まつた多くの弟子に教育し、人材の育成に熱中する毎日を送るようになります。明治四(一八七二)年、川田養江を介して、新政府の財務局勤務の打診がありましたが、断っています。長瀬塾でのことです。冬は寒くても火鉢を遠ざけ、じゅんじゅんと講義をして、いつも時間が長くなりましたが、「遺言として聞いて許してほしい」と言っていました。また、幼少者への講義を年長者が先生の代行を申し出ると、「私の話を聞くのに来てるのであるから、一日に一度は話をしなければ」と断りました。方谷は陽明学者である熊沢蕃山の建築がもとで建てられた閑谷学校の再建を願ひ、明治六年に再建されると九年七月まで、春・秋各一か月ほど滞在して陽明学を講義しています。明治九年九月以来、慢性水腫にかかり、病状は好転せず、明治十年六月二十六日帰らぬ人となりました。臨終に際して家人に命じて枕もとの机上に香を焚き、勝静より賜つた短刀と小銃、王陽明全集を置き、悠然と息を引き取りました。享年七十三才でありました。(文・児玉 享さん)